

2019(令和元)年9月30日

2019(令和元)年度関西保育福祉専門学校 第1回 教育課程編成委員会報告

本校の教育課程編成委員会設置要綱に基づき設置した教育課程編成委員会において、「第1回教育課程編成委員会」を開催しましたので、その概要を報告します。

1 開催期日 2019(令和元)年7月30日(火) 15:00～17:00

2 開催場所 関西保育福祉専門学校 校長室

3 出席者(敬称略)

【委員】

名 前	所 属 等	備考
北野幸子 委員	神戸大学 人間発達環境学研究科 准教授	出席
富奥眞二 委員	社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会 事務局長	出席
赤 井 祐	社会福祉法人聖隷福祉事業団 宝塚せいれいの里 ケアサービス課 課長	出席
浅 田 尚 子	尼崎市立西長洲保育所 所長	出席
北 島 孝 通	幼保連携型認定こども園庄内こどもの杜幼稚園 副園長	出席
濱 田 洋 行	社会福祉法人協同の苑特別養護老人ホーム ケイゾンときめき 施設長	出席
細 川 明 子	関西保育福祉専門学校 教頭	出席
藤 井 和 子	同上 教務部長	出席
山 本 晴 彦	同上 保育科学科長	出席
尾 崎 朋 子	同上 介護福祉科学科長	出席
藤 田 千 波	同上 保育科教員	出席
村 田 健 治	同上 保育科教員	欠席

【オブザーバー】

濱 名 篤	学校法人濱名学院理事長 関西国際大学学長	出席
本 田 あけみ	関西保育福祉専門学校校長 関西国際大学経営学部教授	出席
関 口 剛 司	関西保育福祉専門学校 係長	出席
草 葉 悠 貴	同上 事務職員	出席

4 委員会次第

- (1) 校長挨拶
- (2) 理事長挨拶
- (3) 委員長選出

設置要綱に基づき、藤井和子教務部長が委員長になることが承認された。

- (4) 報告

事項1 これまでの教育課程編成委員会からのご意見とその対応について

■ 学校説明

資料に基づき、教育課程編成委員会の意見を踏まえた取り組みの経緯を説明。

今年度の取り組み

- ・8月下旬に関西国際大学より講師に来ていただき、研修を行う。
- ・プレゼンテーション力を高めていくため、アクティブラーニングを取り入れたものを取り入れる。
- ・キャリア教育の視点から、保育現場、介護現場でのインターンシップ実施に向けて新たな取り組みを考えている。

- ・専門学校を卒業後、系列校である関西国際大学との連携を図る。
- ・外国人留学生への学習支援の取り組み及び支援を図る。

事項2 学校の現状について

■ 学校説明

資料に基づき、学校の現状として、就職内定先・進路決定状況・今年度の入学生の状況についての説明。

(5) 協議

事項1 2019年度の学校の取り組みについて

■ 2019年度事業計画並びに学校経営重点目標について資料をもとに、説明。

◇「入試制度の見直し」について

□ 委員からの意見

- 入試制度の見直しについて、どのようなことを変えていくのか。
→AO入試から指定校入試に切り替えていく学生がいるので、面接評価基準の見直し検討する。
- 面接重視の選考だが、無理ではないかという場合の対応は、どのようなものか。
→授業についてこれない、話せない人に関しては、高校に出向いてお断りをする。入学後、授業や実習で苦勞している状況が見られる。

◇「ペイドインターンシップ、連携型奨学金制度」について

□ 委員からの意見及び質問

- ペイドインターンシップとアルバイトとの違いは何か
→ペイドインターンシップは課題を与えていただき、その課題ができたかどうか振り返り、就職につながるようにしていく。
ペイドインターンシップ制度と連携型奨学金制度は学校が仲立ちする。
- すでに実施し、希望者を受け入れたが、雰囲気や仕事内容などが合わず、すぐに辞めていくケースがあり、続けることが難しい。
- 登録をしたうえで行うのか。
→施設側に8月に説明およびお願いに行く。
連携型奨学金制度は介護福祉科の方ではすでに6施設行っている。
保育科の方は今後お願いするが、市や保育協会等を通すことで、個々にまわるよりも理解していただけるのか。
- 団体ではトラブルがあることもある。
まず、採用実績のある所からの方がよいのではないか。
法人としてどの程度出せばよいのか、資料がある方がわかりやすい。
- 大学では、2017年にインターンシップ必修化論議があったが、必修とはならなかった。経済界では必修単位化まで考えていなかった。日本では、授業科目として単位化してきているので、ぜひチャレンジしてほしい。

◇「保育科の取り組み」について

■ 実習評価表（ルーブリック）並びに教育課程改訂について、資料に基づき説明。

□ 委員からの意見

- 幼稚園教諭免許の上進制が話題となっているが、ストレートに一種免許取得は世界的にない。他国では二種免許から一種免許へは、就職後勉強して取っていくところも多い。
- 教育課程改訂では、授業で保育の何をどう指導するか、内容が課題である。領域に関する科目について、大学の中では1/4期で1単位の所もある。5領域は、保育の基礎と実践(模擬保育)をいれる。特別な配慮が必要な子どももいることを想定して考えることが大事である。
- 教育課程は、文部科学省、厚生労働省の基準があり、講義、演習など根拠に基づき、学校としての規程を定め編成していく。

- 実習の評価基準としてのルーブリックは、学生が自分で理解するためにも、さらなる文言の整理が必要ではないか。
- ルーブリック評価を開示して、学生のリフレクションに活用するだけでなく、教師側からの評価も行ってもよいのではないか。
- 学生は振り返りを知らない。振り返りを通して学んでいく。
- 学生が自己評価の中で取り組んでいくことと、他者評価とを比べて振り返り、自己評価力を高めることが大事である。
- ルーブリックは保育現場でも役立つと考えるので、現場の先生方の意見も取り入れてより良いものへと修正していく方が良い。
- 学んで卒業してほしいことが入っていればよい。
- 高いところを望むのは難しい。保育は楽しい、毎日やってみたいという気持ちを大切にしてほしい。
- 成績が全てではなく、その後学校でどう生かしていくのが大事である。
- 職員も就職してから学んでいる。
- 評価を均等に配点しているのはおかしい。情緒的な保育士像が強く、専門知識の活用力がないのではないか。専門職として専門性をもって話ができないといけない。
- 実習に対して、規範意識に関する項目が入っているが、規範意識は身に付いていることが当然のことで評価点が付くのはどうかと考える。
- 教育実習、保育実習の総和になっているか、検討が必要。
→学校として作成したばかりであり、今日いただいた意見や実習園等のご意見をいただき、改善していきたい。

◇「介護福祉科の取り組み」について

■ 外国人留学生への対応について、資料に基づき説明。

□ 委員からの意見

- 人材不足で、施設では確保に苦労している。
- 「社会の制度」を理解し、他の職種がしていることを理解していくことも大事である。
- 留学生がメインになってきている。日本人の介護福祉士が増えてこない、担任や進路指導が福祉について知らせていっても生徒数の確保は難しい。
- 施設も協力できる部分がある。
- メンタル面で、怒られ慣れていない学生が多くなっている。実習で事実を言われ、ショックを受ける。実習事前指導で話をして、実習に臨ませることが望ましい。
- PDCAサイクルを繰り返していきながら、社会人、専門職業人として育てていくことが望ましい。

(6) 事務連絡